

IV-26

ダム事業に対する住民の参加意識の分析

秋田大学
アジア航測（株）
秋田大学
秋田大学

学生員
正 員
正 員
正 員

○八島 大祐
滝口 善博
木村 一裕
清水浩志郎

1. はじめに

ダム事業のような公共事業は、その与える影響や規模の大きさを事業の推進、特に計画決定の手続きは非常に難航している。多くのダム事業の場合、生活補償や暮らしの変化に対する不安、また、ダム事業効果や地域振興に対する期待など、さまざまな利害関係が発生している。今後の社会基盤整備の推進にあたっては住民の合意形成ということが前提となっており、事業に対してどのような参加意識を持ち、どのような意見を述べたいかを把握することは極めて重要であるといえる。

そこで本研究では、ダム事業地域の住民と防災等で恩恵を受ける下流域の都市住民の参加意識に影響をもたらすものは何かについて考察するため、表-1 に示す3つのダム事業進行地域と、その下流域に在住する20歳以上の住民を対象に、平成9年12月に調査を実施した。

表-1 調査対象地域の概要

地 域	地区名	事業の進捗状況	アンケート回収数
ダム事業	鳥海町	計画	77 / 100
	東成瀬村	計画	72 / 100
	森吉町	工事中	69 / 100
下流域	秋田市		140 / 300

住民の参加意識を分析する上では、その背景となっている事業に伴う効果や影響に対する住民の考え方について、把握しておく必要がある。そこで、本研究では住民の事業整備や影響に対する「見通し」に着目し、どのような認識のパターンが住民の中に存在するのかを数値化3種類を用いて分析した。

分析では、表-2 に示すような住民の合意を形成する上で重要と思われる6つの要因をアイテムとし、それらのダム事業における「良くなる」、「悪くなる」とする見通しをカテゴリーとした。

表-2 ダム事業における見通しの要因

① 自然環境の変化の見通し
② 防災効果の変化の見通し
③ 伝統文化や人間関係の変化の見通し
④ 農業用水や生活用水の変化の見通し
⑤ 観光資源の変化の見通し
⑥ 地域の施設や道路の変化の見通し

2. ダム事業に対する見通しから見た住民意識の類型化

図-1, 2はダム事業進行地域と、下流域の地域の「カテゴリー」プロットである。両地域を比較すると、伝統文化・人間関係と観光資源の整備開発の位置に違いがあることに気がつく。伝統文化・人間関係はダム事業地域で道路や用水などの要因の集まりから離れて位置しているのに対し、下流域では要因の集まりの中に含まれた。観光資源の整備開発は逆にダム事業進行地域では要因の集まりの中に含まれるが、下流域においては離れて位置していた。このことから、ダム事業地域と下流域では事業に対する認識の違いがあり、伝統文化・人間関係と観光資源の整備開発に対する見通しの違いが、その背景となっていることがうかがえる。

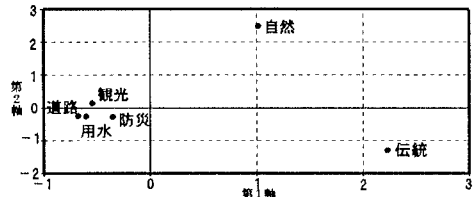


図-1 ダム事業進行地域 カテゴリープロット



図-2 下流域 カテゴリープロット

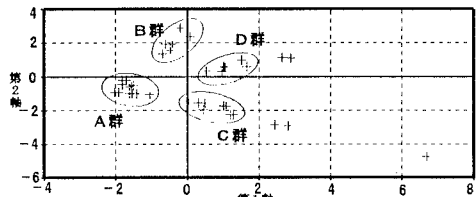


図-3 ダム事業地域 サグittalプロット

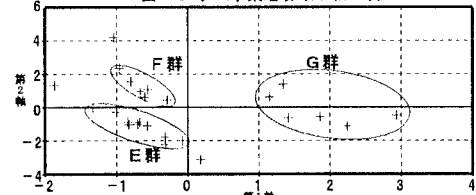


図-4 下流域 サグittalプロット

図－3,4には、同様に各地域のサブグループを示している。各地域のサブグループの集まり具合によりグループ分けを行ったところ、ダム事業進行地域においてA～D群の4つ、下流域においてE～G群の3つに分類された。これらの群の特徴については表－3に示している。各地域のグループにおいて防災や用水、施設・道路に対しては良い見通しであったが、自然や伝統・人間関係、観光資源の整備開発の見通しの違いによりグループごとの事業における認識の違いが見られる。

表－3 各群のダム事業における認識

見 通 し	ダム事業進行地域				下流域		
	A 群	B 群	C 群	D 群	E 群	F 群	G 群
①自然環境	－	＋	－	＋	－	－	＋
②防災効果	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋
③伝統・人間関係	－	－	＋	＋	－	－	－
④農業・生活用水	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋
⑤観光開発・整備	＋	＋	＋	＋	－	＋	＋
⑥施設・道路整備	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋

(＋)は良い見通し、(－)は悪い見通しであることを表す。

3. 住民の参加意識

前章でみられたダム事業に対する認識の違いが、どのように参加意識に影響しているのかについて分析を行った。

分析では、現代の事業に対する参加形態が話し合いであることに着目し、参加意志の有無と、希望する参加形態が表－5に示すような代表的な形態のどれに該当するかということを質問した。

表－4 住民の参加形態

- 1) 自然環境について情報の提供や意見

2) ダムと地域の振興との関係について意見

3) ダム事業による暮らしの変化について意見

4) ダムの事業や計画づくりそのものに参加

(1) ダム事業進行地域の住民の参加意識

表－5には各グループ別の参加意志と希望する参加形態について示している。ダム事業進行地域では、議論に対する住民の参加意志は伝統文化・人間関係に対して影響があるとするB群において72.4%、次いで、全てにおいて良い見通しであるD群が64.1%と高い割合を示している。参加形態をみると、A～D群全体として「ダムと地域振興との関係について意見」の割合が高くなっており、これらの群は、観光資源の整備開発や施設・道路の改善に対して良い見通しであることから、議論の場における意見として

具体的な効果や活性化に対して関心があるものと言えよう。しかしながら、A,B,C群では自然環境や伝統文化・人間関係に影響があるという認識があるにもかかわらず、参加形態としては、自然への影響や暮らしの変化に対する意見は比較的に低くなっている。このことからダム事業進行地域では、地域振興を第一としており、自然環境や伝統文化・人間関係への悪影響については意見する傾向が低く、悪影響を受けるものに対する参加意識の向上が必要と思われる。また、事業において自然環境や伝統文化・人間関係については議論の内容として積極的に提案していく必要もあろう。

(2) 下流域の住民の参加意識

下流域の住民の参加意識は、自然環境や伝統文化・人間関係に対して悪影響があり、かつ観光開発への疑問を抱くE群が38.9%と高い。E群の参加形態については「地域の振興について意見」の割合が高く、観光開発への疑問に基づく参加形態がうかがえる。他のF,G群についても自然環境や伝統文化・人間関係に対する悪影響や疑問に基づく参加形態が見受けられた。したがって、ダム事業進行地域にくらべ、参加意志そのものについては低いが、危機や疑問とする面について、問題意識を持って参加しようとしていることが分かる。これらはダム事業進行地域においてみられない傾向であることから、下流域住民の議論への参加は事業に対する広範な意見を取りいれる上で重要であると言えよう。

表－5 参加意志とその内容（複数回答）

地 域	群 種	参加意志 (%)	希望する参加形態 (%)			
			1) 自然	2) 振興	3) 変化	4) 計画
ダム事業進行地域	A群	50.9	32.1	34.0	24.5	28.3
	B群	72.4	31.0	48.3	20.7	41.4
	C群	59.4	31.3	50.0	31.3	34.4
	D群	64.1	35.9	53.8	35.9	35.9
下流域	E群	26.4	17.0	13.2	17.0	17.0
	F群	38.9	27.0	5.4	18.9	18.9
	G群	22.6	16.1	9.7	16.1	16.1

4. まとめ

以上の分析結果から、住民の参加意識はダム建設地域と下流域において、参加意志の有無の割合だけでなく、希望する参加形態と事業に対する認識との関連性について相違があることが分かった。また、今後の研究課題として、これらの群どうしがお互いをどう認識しているかを調べることで、ダム事業において発生する利害関係についての分析を行い、利害関係と参加意識との関連性について明らかにしていきたい。